

作品タイトル：「正弦波状明度の振動強調錯視」

応募者：大高 洸輝*，長 篤志**，小川 和也**

所属：*広島商船高等専門学校， **山口大学大学院 創成科学研究科

解説：

この錯視は，正弦波状に変化する濃淡画像を左右に振動させた際，正弦波の最も明るい部分（または，最も暗い部分）において，その移動の振幅を過大視する錯視である．図 1 に作品画面の一部を示す．画面上部には灰色の矩形が並んでおり，画面下部では正弦波状の濃淡変化が描画されており，画面上部と下部が連動して左右に振動する．ここで，画面上部の矩形間の仕切り位置は，下部の正弦波における最も明るい部分と対応している．画面中央に表示された注視点を注視した状態で観察すると，画面上部における矩形間の仕切りの揺れに比べ，画面下部の正弦波の明るい部分は大きく揺れて見える．知覚する振幅は，左右への振動の周波数によって変動し，個人差はあるものの，知覚する振幅がより大きくなる周波数にはピークがあることを示唆する実験結果を得ている．

※繰り返し再生すると観察しやすい

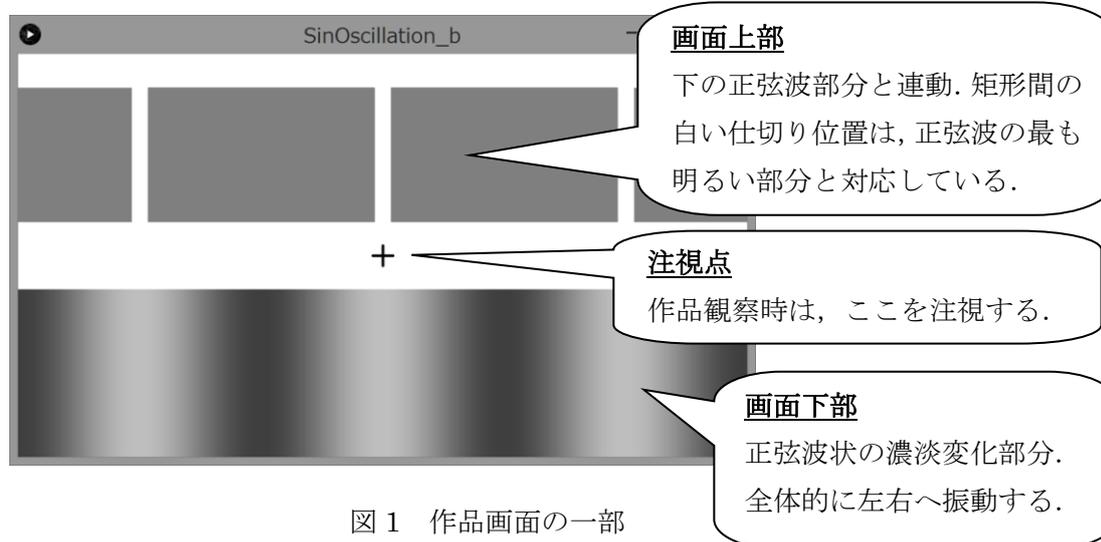


図 1 作品画面の一部